

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2018.7) 平成29年度:120-123.

周産期医療における多職種連携の現状と課題

鈴木 彩花, 栗原 かおる

## 周産期医療における多職種連携 の現状と課題

旭川医科大学病院 周産母子センター  
4階東病棟:鈴木彩花  
NICU:栗原かおる

## 産科病棟における多職種連携

### 施設紹介

- 旭川医科大学病院の概要  
病床数 602床  
2005年 赤ちゃんにやさしい病院に認定
- 周産母子センター概要  
地域周産期母子医療センター  
病床数 産科16床、NICU9床、GCU12床  
年間分娩件数 373件(2016年)  
看護スタッフ数(産科・GCU) 助産師24名・看護師14名

### 周産母子センター 患者背景

- ハイリスク妊婦の割合 84%
- 精神疾患合併妊婦の割合 23%
- 高齢出産の割合 35%
- 帝王切開率 41%
- 大学病院という特性上、ハイリスク妊婦の割合が高い
- 精神疾患合併妊婦など多職種連携・地域連携が必要となるケースも多い

### 社会的ハイリスク妊婦への支援の必要性

- 児童虐待の背景には、母親の育児不安、精神疾患や産後うつなどの様々な問題が関与している
- 虐待の予防や健やかに子育てを行っていくための支援は、妊娠期もしくはそれより前から始まっている
- 特に社会的ハイリスク妊婦に対しては、早期から支援の必要性を把握し介入を始めていくことが必要
- 多職種連携・地域連携により、妊娠・分娩・産褥期そして家庭に帰ってから、切れ目なく支援していくことが必要

### 当院における妊娠期の関わり

- 初診問診時や妊婦健診で社会的なリスクについて把握
- 社会的ハイリスクと判断された場合、外来から病棟へ情報提供
- 助産外来で育児に対する考えやサポート状況などを確認  
対象:28週と35週以降隔週
- HRPカンファレンス:産科医師、新生児科医師、外来病棟助産師、NICU・GCU看護師、医療ソーシャルワーカー、薬剤師が集まり週1回情報交換
- 妊娠中から保健師が介入している場合には、保健師との情報共有や、カンファレンスへの参加を依頼

## 当院における分娩・産褥期の関わり

- 外来からの情報と入院時に得られた情報からカンファレンスを行い患者情報の共有・ケア方針の検討
- ハイリスク妊婦は、4～5名チームで受け持つ体制をとる
- 母子の愛着形成を促す  
母子同室  
母乳育児支援（合併症により内服している場合でも、本人の希望に応じて母乳育児ができるよう調整を図る）

## 当院における分娩・産褥期の関わり

- 家族も含めた育児支援  
夫や実母に付き添いをしてもらい、自宅での生活を想定した育児指導を行う  
退院指導にも同席してもらう
- エジンバラ産後うつ病質問票の活用
- 他部門との連携(医師、薬剤師、NICU看護師、医療ソーシャルワーカー)
- 保健師への電話連絡、養育支援連絡書の送付

## 当院における退院後の関わり

### すくすく外来

- 1か月健診までの間、育児状況の確認したり育児相談を受けている

### 1か月健診

- 母子の健康状態を把握する
- 産科医師、小児科外来看護師や小児科医師、合併症がある場合にはその科の医師、医療ソーシャルワーカーと情報共有
- 受診状況や受診時の様子を保健師へ連絡

### 電話相談

- 日中は外来、夜間は病棟で電話での育児相談を受け付けている

## 社会的ハイリスク妊婦を支える 大学病院の助産師としての役割

- 妊婦健診や助産外来で定期的に話を聞き、状況を把握する
- 母子の愛着形成を支援する
- 合併症を持つ妊婦が安心して妊娠・分娩・産褥期を過ごすことができるよう支援する
- 退院後も定期的に母子の状況を把握する
- 各場面において、多職種連携・地域連携により切れ目のない支援が受けられるよう調整する

## 今後の課題

- 数多くいるハイリスク妊婦の中で、支援を必要とする対象を把握し、切れ目のない支援を行う
- 多職種と日ごろからお互いの役割や介入内容を情報交換する機会を持つ
- 退院後の母子のサポートシステムの構築

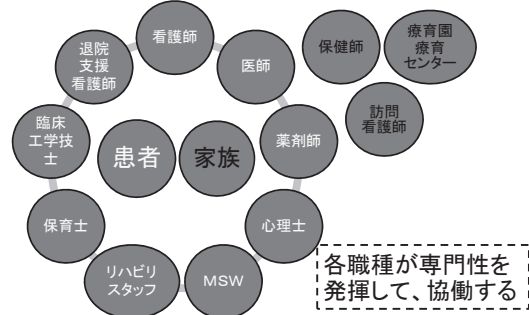
## NICUにおける多職種連携

## 当院NICUの概要

- NICU9床・GCU12床(GCUは産科管理)
- スタッフ
  - 新生児科医師5名
  - 看護師23名(新生児集中ケア認定看護師2名)
  - 薬剤師1名
  - 心理士1名
- 平成28年のNICU入院新生児
  - 総数:98人
  - 主な疾患:低出生体重児58人  
(超低出生体重児12人・極低出生体重児10人)  
外科疾患12人・先天性心疾患9人・染色体異常3人
  - 出生場所:院内74人(75.5%)・院外24人(24.5%)

## NICUにおけるチーム医療

- 患者・家族を中心としたチーム医療



## NICU入院前の連携の実際

- 週1回、産科との合同カンファレンス  
産科医師・新生児科医師・産科看護師(助産師)  
NICU看護師・GCU看護師・外来助産師  
退院支援担当看護師・MSW・心理士・薬剤師
- 各勤務帯毎に産科看護師(助産師)と情報共有
- NICU看護師や新生児科医師による出生前訪問
- 出生後の対応についてのケースカンファレンス

## NICU入院後の連携の実際

- 産科看護師(助産師)との情報共有  
母乳育児支援・母親の精神的支援
- 心理士との連携
- GCU看護師との情報共有・継続看護
- 退院支援担当看護師、MSWとの連携
- 各関連部門との連携  
手術室・検査室・臨床工学室 など

## 多職種カンファレンス

- 毎朝30～60分
- 参加職種  
医師・看護師・薬剤師・心理士  
理学療法士(週1回)  
退院支援担当看護師(週3回)
- 内容  
患者と家族についての情報共有  
治療方針の確認・検討

## はぐくみカンファレンス

- 1ヶ月に1回
- 参加職種  
医師・NICU看護師・GCU看護師・心理士  
退院支援担当看護師・MSW  
リハビリスタッフ・保育士
- 内容  
1カ月以上入院している患者の療育に関する  
検討  
情報共有

## 退院支援に関する連携

- 退院支援担当看護師・MSWとの連携
- GCU・産科との連携  
退院前の母子同室
- 地域保健師との連携
- 医療的ケアが必要な患者への対応  
多職種で共有できる退院支援計画書の活用  
小児科病棟での母子同室・外泊  
訪問看護ステーションなどとの合同カンファレンス

## ぽぽの会

- 1ヶ月に1回
- 参加職種  
新生児科医師・NICU看護師・GCU看護師  
産科看護師・小児科看護師  
地域医療連携室看護師・MSW
- 内容  
NICU・GCUからの退院支援に関する検討  
在宅移行準備中の患者の情報共有

## 今後の課題

- 医療的ケアを必要とする患者の増加に伴う
- 退院支援に関する他部門や院外との連携
    - 小児科病棟・外来
    - 保健師
    - 訪問看護ステーション
    - 療育センター・療育園 など
  - 顔の見える関係性の構築
    - 退院後訪問・訪問看護師との同行訪問